

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	弱含んでいる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	↗

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
観光	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	↗
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	↘
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、家計の節約志向の高まりがみられるものの、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、観光地等の店舗が回復傾向にあるなど、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、来店客数や受注数が堅調であるほか、一部車種で納期の改善がみられ、緩やかに持ち直しつつある。ドラッグストア販売は、医薬品が回復傾向にあるなど、前年を上回っている。家電販売は、品薄状態は解消されたものの、家計に節約志向がみられるなど、持ち直しの動きに一服感がみられる。百貨店販売は、足下でインバウンド消費が回復傾向にあるなど、持ち直しつつある。ホームセンター販売は、インテリア用品・家電の動きが弱く、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 1点単価の上昇や衣料品の回復により売上は堅調であるが、まとめ買い傾向やPB商品の構成比が高まるなど、消費者の節約意識は加速している。(スーパー)
- このところ感染拡大による好不調の波はほとんどなくなっており、いわゆる第8波についてもほとんど影響が無かった。(コンビニエンスストア)
- 受注残は解消されていないが、納期遅れは徐々に改善しており、車種によっては短期間で納車できる場合もある。(乗用車販売店)
- 商品単価の上昇・風邪薬の復調等により売上は前年を上回るものの、全体的に消費者の節約志向を感じる。インバウンド消費は、12月以降急速に回復しており、台湾や韓国からの顧客が多い。(ドラッグストア)
- TVやカメラ、調理家電の売行きが良くない。家電の中でも優先度が低い商品は、最低限の機能の安価なもので済ませたり、購入しないことで節約しようという動きがみられる。(家電量販店)
- インバウンド消費は、12月以降回復し、ブランド品や食料品が好調。国内客は、感染拡大の影響がややみられたものの、クリスマスはコロナ後最大の来客となった。(百貨店)
- 飲食店については、夜間の国内観光客やランチ需要により、持ち直しの動きが続いている。(不動産業)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、「輸送機械」や「食料品」などが減少しており、全体では弱含んでいる。

- 納期改善に向けて生産を進めているが、引き続き半導体不足の影響がみられるほか、中国向けの需要の低下もあり、生産を抑制した。(輸送機械)
- 仕入価格の上昇を価格転嫁したところ、当初見込みより、チーズ・ヨーグルト等の販売数量が落ち込んでいる。(食料品)
- 原材料である古紙が不足した前年より生産量は増加しているものの、東南アジア等の経済状況から見て、輸出の減少が見込まれており、今後生産量が減少する懸念がある。(パルプ・紙・紙加工品)

### ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇しており、完全失業率は前年を下回るなど、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 新規求人数は、引き続き増加傾向にある。サービス業は、特に調理・清掃スタッフの求人が増加しているほか、建設業は、資格保有者が求められているが、適した人材が少ないことから、求人が増加した。(公的機関)
- 月間有効求職者数は減少傾向にある。今期は行動制限がなく、社会活動が活発化しているなかで、現在の仕事の多忙さから在職者らが求職活動を控えているという声が聞かれた。(公的機関)
- 人手不足により人件費が高騰しているなか、現場の技術職が足りず、派遣会社経由で人員を確保している。また、同業他社からも人材派遣を依頼されたり、工事自体を委託されることもある。(建設業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 生産拠点の統合にともない、機械の新設など能力増強投資を行う。(食料品)
- 道産材が成熟してきているなか、より太い木材の加工に対応するため、工場を新設する。供給制約により機材の導入が遅れ、一部来期に持ち越すものもある。(木材・木製品)
- 長年使用してきた基幹システムを更新する。デジタル化に対応することで生産性を向上させ、従業員の負担を軽減することを最大の目的としている。(卸売業)

■ **観光** 「持ち直しつつある」

- 観光は、来道客数、外国人入国者数がともに前年を上回っており、持ち直しつつある。

- 今期は、全国旅行支援の開始や水際対策の緩和による影響が顕著に表れており、今まで苦戦していた道外比率が65%と大きく伸長したほか、新千歳空港へ直行便がある国からの来道が多く見られた結果、コロナ禍前以上の実績となった。(旅行業)
- 12月からは、新千歳空港へ直行便がある韓国や東南アジアを中心としたインバウンドが動き出している。1月以降も、さっぽろ雪まつりなどのイベントの開催を背景に、海外客の予約が好調である。(宿泊業)
- 例年通りだと、1月は北海道旅行があまり盛り上がりがない時期であるものの、インバウンドが好調であるほか、全国旅行支援の再開後、国内客の予約や問い合わせが毎日あるなど需要の高まりがみられる。(宿泊業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、「食料品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年10-12月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。

なお、先行きは、5年4-6月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を下回っており、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第3四半期は、市町村が前年を上回っているものの、国、独立行政法人等、北海道が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を上回る」

■ **企業倒産** 「前年を上回る」

■ **消費者物価** 「前年を上回る」